東京納税貯蓄組合総連合会　会長賞

「妹と税金」

足立区立　青井中学校

三年　門田　洸樹

僕の妹は身体に重度の障害があります。しかし、「税金による社会保障制度」のおかげで楽しく安心して暮らすことができています。

しかし、妹は一人で立つことやバランスを取ることが難しいので、日常生活には車椅子や、特別な椅子が必要です。しかし、こういう福祉器具は非常に高価です。例えば、妹が使っている車椅子を新しく作ろうとすると、約五十万円もの費用がかかってしまいます。僕の家庭は、そのような大金をポンっと出せるほど裕福ではありません。もしすべてのお金を自分たちで支払わなければならないとしたら、妹に必要な道具を揃えることはとても難しくなります。

そこで、僕たちの納めている税金の出番です。東京都や足立区には、障害のある人をサポートするさまざまな仕組みがあり、車椅子などの費用の九割を税金から払ってくれます。そのため、僕の家でも経済的な負担が軽くなり、妹に合った器具をきちんと選ぶことができます。

移動の面では、都営地下鉄や都営バス、日暮里・舎人ライナーや都電の運賃が無料になったり、ＪＲやその他の私鉄の鉄道やバスも、本人と介助者がそれぞれ半額になります。障害がある妹とその親にとって、楽に通院や外出をすることができるようになり

ます。

僕は、これらの制度について、詳しく調べるまでは、税金というものが自分たちの生活にどのように関わっているのか、あまり深く考えたことがありませんでした。しかし、妹の生活を支えてくれている具体的な数字や制度を知ることで、税金は、困っている人をみんなで支え合うための大切な「優しさの仕組み」なのだと気付かされました。税金があるから、妹は社会の一員として守られて、なおかつ笑顔で過ごすことができるのだと気付きました。

もしも、社会に、税金による社会保障がなかったら、僕の妹と他の家族も含めて、多くの障害者やその家族が不安の中で暮らすことになっていたと思います。誰もが安心して笑顔で暮らせる社会を作るために、税金はなくてはならないものです。

将来、僕が大人になったら、僕はしっかりと税金を納め、誰かの生活を支える一員になりたいと思いました。妹が今、たくさんの人や税金に支えられて生きているように、僕も社会への感謝を忘れずに、誰かを支えられる大人になりたいです。